

# 高田援護室長の模型部屋(第22回)

皆さん、こんにちは。毎年言っている様な気がしますが、今年の夏は暑いですね。猛暑日も各地で観測されましたね。そんな暑い夏休みやお盆休みを皆様はいかが過ごされましたか？海に、山に、行楽地に・・・楽しい思い出が出来ましたか？

私は、新潟県内の模型店めぐりとプラモ製作に明け暮れていました。娘達が北海道の親戚の家に遊びに行ったので、結構自由な時間が取れました。いくら夜更かししても娘達に邪魔されない・・・少しさびしいけど、このチャンスは生かさなければ(笑)と黙々とプラモに集中していました。

さて、今回はその製作した中から・・・

**四式軽戦車**です。



四式軽戦車は太平洋戦争末期に開発されたもので、95式軽戦車の車体に97式中戦車の砲塔を搭載し、火力を増強させた戦車です。本土決戦用に数両が配備されたものの、実戦には参加していないそうです。ドイツでも応急的に改造した戦車がありますが、それに近いものがありますね。でも、やはり強そうには見えない豆戦車です。今回のキットはドラゴン社製のものをストレート組しました。特に改造等は加えてません。

最近では旧日本陸軍や自衛隊車両模型の発売が多く、購入する側にとっては嬉しいのですが、我が家の防衛費を考えると死活問題です。もはや削るのは食費のみ。娘達からは「削るところが違うだろ～！」と説教されています(笑)



日本陸軍の97式中戦車や95式軽戦車のフォルムに慣れているせいか、ハイブリッドな組み合わせに少し違和感を覚えてしまいがちですが、ドラゴン社製のキットは細部にわたるモールドがシャープで、特に手を加えなくても精密な出来映えになります。エッチングパーツも同封されており、別売りのパーツを購入するためにあちこちの模型屋に行ったり、ネットで注文しなくても良いのが助かります。



塗装はGSIクレオスの日本陸軍戦車色セットを使用しました。いろんな色を混ぜて調色して塗装していた頃に比べるととても楽ですね。枯草色をベースに迷彩の境界線を筆塗り後、エアブラシで塗装しました。



大戦末期に生産され終戦を迎えた事もあり、長期にわたり風雨にさらされて錆が発生するほどでもなかったと想像し、朽ち果てた感じは抑えました。それでも、表面は埃と泥で削られて光沢がなくなるので「つや消しトップコート」を吹き付け、ウェザリングスティックで埃や泥をこすり付けます。



履帯はキットのベルト式を使用していますが、エナメル塗料に弱く溶けて脆くなるので注意が必要です。もう少し材質の改善をお願いしたいところです。撓みはフェンダーと履帯の間に綿棒や紙片を挟み込み、撓ませた状態で上部転輪と履帯を接着しました。撓み具合が少なかったかもしれません。



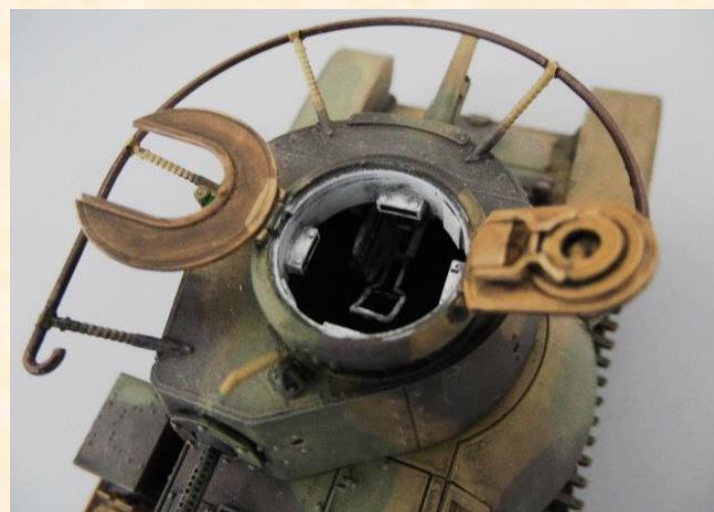
正面と後方から見た四式軽戦車。コンパクトにまとまった戦車だと思のですが・・・戦車というには火力が弱いです。



ワイヤーはフラットブラックの上にGSIクレオスのメタルカラーを塗り、綿棒で擦りました。車体の角も鉛筆の粉をこすり付けて金属感を表現してます。マフラーは高熱の為塗装が浮き出て剥がれ、すぐに錆付くので、パステルコンテ(茶色)の粉を少量の水で溶いて泥状にして塗りました。その後にメッシュを取り付けます。



フィギュアの戦車兵はキット付属のものです。凛々しい顔の日本人に少し違和感を覚えますが、せめて戦車兵くらい強くて…



車内は白色サファイサーを吹き付け、そのままの状態ですミ入れしてます。ちょっと手抜き(笑)日本の戦車の中は狭いんですね。当時の苦勞が想像できます。

# 突撃い!



ICM社(ウクライナ製)の日本兵セットと組み合わせ、南方で戦闘した場面を想定してみました。終戦特集のドキュメンタリー映像で出てきそうです。

# うおお〜!



といったところで、今回はここまで。  
また、お付き合いください。